水野教育長記者会見　概要

※文字起こしには AI を利用しております。漢字の誤変換等があるかもしれませんが、あらかじめご了承ください。

教育委員会の取組みについて

【水野教育長より】

１（１）教員スタートアッププログラム及び学校見学会について

大阪府教育庁では、教員免許状はあるものの教職に就いたことがない方や、教職から長く離れている方を主な対象として、学校現場で働くことの、より具体的なイメージや関心を持っていただくために、今の学校の様子を研修形式で学んでいただく「教員スタートアッププログラム」、実際の授業を見学できる「学校見学会」を実施しております。

「教員スタートアッププログラム」、「学校見学会」どちらも、６月に第１回目、９月に第２回目を開催したところ、参加者からは、「教育現場のイメージが膨らんだ」「教職への不安が少し解消した」「授業や校内を見学できて貴重な時間だった」などの声があり、好評をいただいております。

次回の「教員スタートアッププログラム」は、11 月３日・火曜日の祝日に「大阪学院大学」にて開催し、「学校見学会」は 11 月 12 日・木曜日に「大阪府東大阪市立布施（ふせ）小学校」にて開催いたします。

「教員スタートアッププログラム」、「学校見学会」どちらも、申込受付は、府のホームページで開始していますので、これまで参加できなかった方を含め、ぜひお気軽にお申し込みください。

なお、大阪府教育委員会では、講師登録についても随時受け付けています。講師登録も是非よろしくお願いいたします。

２（１）大阪府オーサービジット事業（令和８年度）について

大阪府教育庁では、子どもたちが、読書の楽しさを知ることができるよう、「大阪教育ゆめ基金」を活用した子ども読書活動推進事業として、本の作家さんが、大阪府内の学校園等を訪問し、お話や、ワークショップ等を行う「オーサービジット事業」を実施しています。

令和８年度につきましては、10 月２日から来年２月にかけて、38 の学校園やフリースクール等で実施いたします。

本事業には絵本作家や児童文学作家など、19 名の作家の皆様にご協力いただいており、当日は、著書の読み聞かせや作品にまつわるお話だけでなく、お絵かき歌や工作など、子どもたちが主体的に参加できるワークショップも行います。作家の方々と直接触れ合う体験を通して、子どもたちが本や読書に興味・関心を持つきっかけとなることを期待しています。

記者の皆さまにも、ぜひ取材いただけたらと思います。なお、取材いただく際には、担当課へお問合せください。

３（１）高校生大使派遣プロジェクトについて

府立高校及び府立支援学校高等部の生徒が、万博を契機に大阪府とつながりを持った国・地域を「高校生大使」として訪問する海外研修を今年度から新たに実施します。

今年度の派遣先は、シンガポール、オーストラリア、フィリピンの３コースとし、現地における次世代産業をはじめとした

先進的な取組みの視察や、現地の高校生又は大学生との交流などを行います。

また、帰国後には、現地での学びの成果を他の府立高校生等に普及するなど、本プロジェクトをとおして得られた学びを広く還元する取組みも行います。

こうした取組みを通じて、生徒の国際的視野を広げるとともに、将来、大阪の発展を担う人材の育成をめざしています。

現在、参加者の選考を進めており、参加者決定後 11 月８日の日曜日には「高校生大使」任命式を実施する予定です。任命式では、任命証授与、各コース代表生徒による決意表明等に加え、府立高校出身である元ラグビー日本代表キャプテンの廣瀬俊朗（ひろせ　としあき）様をゲストスピーカーとしてお招きし、特別講演いただく予定です。

その後、６回の事前研修を経て、いずれのコースも３月中旬から下旬にかけて、海外研修を実施する予定です。

本プロジェクトに参加した生徒が、今後、国際的な視野を広げ、将来、大阪の発展を担う人材となっていくことを期待しております。

４（１）令和８年度　大阪府中学校生徒会サミットの開催について

大阪府教育庁では、生徒の自主的・主体的な姿勢を育み、各中学校における生徒会活動の充実を図るため、毎年「大阪府中学校生徒会サミット」を開催しています。

令和８年度は、11 月７日土曜日に、大阪府議会議場において開催します。府内 43 市町村の公立中学校、府立中学校及び私立中学校から生徒会代表が集まり、学校や地域を越えて交流するとともに、意見交流や協議を行います。

今年度のテーマは、「生徒会ってなんのため？」です。

生徒会活動は、学校ごとに様々な取組みが行われています。今年度は、その前提となる「生徒会は何のためにあるのか」「そのために、生徒会はどのような活動を行っていくのか」について、生徒自身が改めて考える機会となります。

参加する生徒会代表は、他校の生徒との対話や意見交流を通して、多様な考え方や価値観に触れながら、自らの考えを深めていきます。

このサミットを通して、各校において、全ての生徒が学校をよりよくするために何ができるかを考えながら、生徒が主体的に学校づくりに取り組むことを一層推進していきます。

５（１）大阪文化回廊　STORIES　OSAKA　2026 の開催について

文化財保護課では、府内に点在する文化財や地域の文化資源の魅力を広く発信し、周遊観光の促進を図るため、「大阪文化回廊（おおさか　ぶんか　かいろう）　STORIES　OSAKA（ストーリーズ　おおさか）　2026」を開催中です。

大阪には、世界遺産をはじめ、古墳、社寺、古民家など、多様な文化資源があります。本事業では、大阪府立弥生文化博物館、大阪府立近つ飛鳥博物館、日本民家集落博物館をはじめ、府内各地の文化財や文化資源の魅力を広く発信します。

開設する特設サイトでは、文化財や文化資源をショート動画やモデルコースを通じて紹介します。来訪者はサイト上で巡りたい文化財などを選ぶことで、自分だけの周遊ルートを作成することもできます。

また、先週から来年 2 月 19 日までの期間で、人気ゲームシリーズ「モンスターハンターストーリーズ 3」と連携し、府立等博物館 3 館を中心に、府内 35 か所の博物館や文化財などを巡るデジタルスタンプラリーや展示企画などを始めています。デジタルスタンプの獲得数に応じてオリジナル特製マグカップなどの素敵な賞品が抽選で当たる企画もあります。

詳しくはお配りしている資料をご参照ください。

本事業を通じて、多くの方々に大阪の文化財などの魅力を知っていただき、実際に現地を訪れていただきたいと思います。ぜひ特設サイトをご覧いただき、大阪の歴史文化を巡る旅をお楽しみください。

５（２）世界遺産　大阪フォーラムの開催について

百舌鳥・古市古墳群（もず・ふるいち　こふんぐん）世界遺産保存活用会議では、11 月 8 日日曜日に縄文遺跡群世界遺産本部と連携し、エル・おおさかにてフォーラムを開催いたします。

本フォーラムは、「北海道・北東北の縄文遺跡群」の世界遺産登録 5 周年を記念するとともに、今年 7 月新たに世界遺産登録が決定した「飛鳥・藤原の宮都」と 2024 年に登録された「佐渡島の金山」を含めた４つの世界遺産が協演いたします。

当日は各世界遺産の担当者による講演や意見交換を実施し、それぞれの遺産の価値・魅力を知っていただき、さらには、世界遺産の未来について考える契機にできればと考えております。

６（１）弥生文化博物館 「秋季特別展」について

府立弥生文化博物館では、12 月 13 日の日曜日まで秋季特別展「ヒト・戦い―武器を手にした弥生人」―を開催しています。

中国の歴史書には、弥生時代のころの日本列島では、人びとがあらそい、社会が大きく乱れたと書かれています。弥生時代は、大陸から日本列島に稲作が伝えられた時代ですが、人を攻撃するための道具である「武器」が使われるようになったのもこの時代からです。

発掘調査によって、傷を負った人骨や、濠（ほり）をめぐらせて守りを固めた集落などもみつかることから、日本列島における「戦争」は弥生時代に始まったのだ、と考えられてきました。

しかし、近年の新たな発見や分析の成果により、現在その評価は変わりつつあります。

本展では、このような研究の流れの中で重要な位置を占める資料を展示しております。また、会期中は週末を中心に、弥生文化研究の専門家による講演会や学芸員による展示解説なども開催しています。

６（２）近つ飛鳥博物館 「秋季特別展」について

次は、府立近つ飛鳥博物館についてのお知らせです。

府立近つ飛鳥博物館では、12 月 6 日日曜日まで、秋季特別展 「瑠璃（るり） －古代ガラス国産化の軌跡－」を開催しています。

私たちの生活に欠かせないガラスは、紀元前 2300 年ごろに古代メソポタミアで生産が始まり、日本列島には紀元前 3 世紀ごろの弥生時代に中国から伝わりました。しかしその後、7 世紀後半に原材料からガラスを作ることができるようになるまでの約千年もの間、海外から持ち込まれるガラス製品に頼っていました。国内の遺跡から出土する鋳型（いがた）や失敗品などからは、ガラスの国産化に挑んだ人々の姿を垣間見ることができます。

本展示では、先日世界文化遺産に登録された、奈良県明日香村の古墳出土品のほか、各地の遺跡や寺院出土のガラス製品、そして、それらを生産するために必要な道具などをもとに、古代ガラスがどのように国産化されていったのか、その歴史を紹介します。また、近年は古代ガラスの復元事業が行われており、そのひとつとして正倉院宝物（しょうそういんほうもつ）の再現事業で復元されたガラス製品も展示します。

近つ飛鳥博物館では、館長以下、初心者の方にも分かりやすい展示作りを心がけておりますので、ぜひご来館ください。

６（３）日本民家集落博物館「秋の民家まつり」について

次は、日本民家集落博物館　秋の民家まつりの開催についてです。

国指定の重要文化財など、日本各地から貴重な民家が移築された日本民家集落博物館で、10 月 25 日、日曜日に「秋の民家まつり」を開催します。

本イベントでは、展示民家において、はたおりやお茶会、竹細工やこま遊びなど、懐かしい昔のくらしや遊びが体験できます。また、大阪・関西万博シグネチャーパビリオン「EARTH MART（アース　マート）」の茅（かや）が大阪府に譲渡されたことにちなみ、「めぐる茅（かや）、つながる未来」と題して展示や謎解きイベントを実施します。

謎解きイベントをクリアされた方には先着で、もずやんとミャクミャクの限定グッズ「万博レガシール」や「古民家アクリルキーホルダー」のプレゼントがもらえる他、各民家のふるさとからのプレゼントが当たる抽選会にもご参加できます。

子どもから大人まで楽しめるイベントが盛りだくさんです。皆さまの参加を心よりお待ちしております。

質疑応答

●大阪中学校体育連盟陸上競技部におけるエントリー漏れについて

（関西テレビ）

大阪中学校体育連盟（以下、中体連）の陸上競技部門におけるエントリーミス問題についてお伺いします。

担当者が全国大会のエントリー手続きを誤認したことにより、大阪府の中高生 8 人が全国大会に出場できなくなった事案です。中体連側から大会主催者への働きかけや協議も行われたと聞いていますが、結果として救済措置の申し出は取り下げられ、大会への参加は難しい状況となっています。

この一連の問題についての受け止めをお聞かせください。

（水野教育長）

まず受け止めとしては、今回、選手である生徒に何かミスがあったわけでもありませんし、もちろん保護者にミスがあったわけでもありません。また、所属するクラブにも何か問題があったわけではありません。そうした中で、これまで頑張ってきた生徒たちが活躍の場に立てなくなってしまうというのは、本当に大変残念なことだと思っています。その舞台に立てると思って努力を続けてきた生徒の気持ちを考えると、その機会が失われてしまうことによる失望感は非常に大きかったのではないかと思います。

そうしたことから、吉村知事からも主催者に対して要望書を提出しましたし、私たちとしても何かできないかということを模索していたところです。

日本陸上競技連盟としては、当該選手の今大会への参加については難しいという結論が示されていると承知していますが、参加とは別の対応についても検討しているという話もありますので、引き続き、その内容について注視していきたいと考えています。

（関西テレビ）

中体連は任意団体であり、教育庁が直接所管している組織ではありません。また担当者もそれぞれ市町村の教員

であるなど、難しさもあると思いますが、再発防止に向けて教育長として考えていることがあれば教えてください。

（水野教育長）
まずは同様の事案が二度と発生しないように、すでに申し入れを行っております。
中体連から説明を受けていますが、私たちからも「担当者任せにするのではなく、陸上競技部全体として、いつまでにエントリーしなければならないのか、その情報が組織内で共有されているのか、そして実際にエントリーが完了しているのかを組織として、しっかりと確認する仕組み」を作り、リマインドを徹底していただきたいと申し入れています。
今回のミスの件で、実際に対応していたのは日頃から授業や部活動を担当している教員です。
しかし、1 人の担当者だけに責任を負わせるのではなく、組織全体として今回の事案を重く受け止め、二度と同じことが起こらないよう確認体制をしっかりと構築していくことが必要だと思っています。
私から直接指示できる組織ではありませんが、今回の件については非常に重く受け止めていただきたいと思っています。

●高校生大使派遣プロジェクトについて
（日経新聞）
高校生大使派遣プロジェクトについてお伺いします。
今年度から始まる事業とのことですが、このような形で府立高校生を海外へ派遣するプロジェクトは過去にもあったのでしょうか。

（水野教育長）
今回のように「高校生大使」という形で派遣する事業は、少なくとも近年ではなかったと思っています。
もちろん、海外へ行くことに対して補助を行う事業や姉妹校との交流事業などは、これまでもありましたが、高校生に「大使」としての役割を与えて派遣するという取組みは初めてではないかと思います。

（日本経済新聞）
今回のプロジェクトは、万博を契機として始まった事業だと思いますが、従来の海外研修と比べての違いや、また、どのようなことを生徒たちに期待していますか。

（水野教育長）
大きな違いは、まず派遣先の国や地域について生徒たちがしっかり学び、そのうえで現地に行った際に「日本の良さ」、「大阪の良さ」を自分の言葉で語ってほしいという点です。
「高校生大使」ですので、訪問先で大阪の魅力を自分の言葉で発信することが求められます。そのためには英語力も必要ですし、場合によってはプレゼンテーション能力も必要になるでしょう。そこを期待するのが、まず 1 つ。そして、帰国後には、自分たちがその国でどのような活動を行い、どのような学びを得たのかを、参加していない府立高校生たちにしっかりと発信して「熱」を伝えていってほしいと思っています。

（教育長発言・補足）
「中学生生徒会サミット」についても、ぜひ注目していただきたいと思っています。
皆さんもご存じのとおり、中学校では生徒会役員選挙があります。

高校もそうですが、中学校の段階から選挙を行い、生徒会長や副会長に立候補した生徒が、「自分が生徒会長になったらこういうことをしたい」「こういう課題を解決したい」ということを全校生徒の前で演説します。そして、その演説を受けて選挙が行われ、生徒会役員が選ばれます。

各学校でそれぞれ生徒会活動を行っているわけですが、このサミットでは、各中学校の生徒会代表が一堂に会して、生徒会代表同士で意見交換や交流を行います。

私自身も参加したことがありますが、本当にレベルが高いです。

サミットで刺激を受けた生徒会代表が学校に戻り、「他校ではこんな取組みをしていた」「校則の見直しを生徒主体で議論していた」「生徒会活動でこんな工夫をしていた」といったことを持ち帰ります。逆に、自分たちの活動を紹介したことで、他校の生徒から励まされたという話もあります。

そうした交流が行われる場ですので、生徒会活動の意義を改めて考える今回のテーマ、「生徒会って何のため？」というのは非常に大切なテーマだと思います。

生徒会活動を掘り下げていくと、自主性や主体性、マネジメント、組織運営、さらには組織改革といった要素まで体験し学ぶことができます。

そうした経験は、将来大人になって社会で活躍する際にも必ず生きてくるものだと思います。

ぜひ取材していただければありがたいと思っています。

（これは記者会見の概要であり、発言内容をそのまま記録したものではありません。）